

会議名	平成24年支援相談員部会新人研修	<input checked="" type="checkbox"/> 全体会 <input type="checkbox"/> ブロック会 <input type="checkbox"/> 執行部会
開催日	平成24年 8月 24日(金) 9:30 ~ 17:00	
場所	横浜市総合保健医療センター 4F 講堂	
参加者	<p>(北ブロック) : 葵の園・川崎、葵の園・ヨコハマ瀬谷、青葉の丘、ウエルケア新吉田、うしおだ老健やすらぎ、神奈川苑、希望の森、グリーンリープス赤枝、幸正の苑、シオンよこはま、ソフィア都筑、たかつ、都筑シニアセンター、都筑ハートフルステーション、ファイン新横浜、ほほえみの郷横浜、みどりの杜、遊花園、よみうりランドケアセンター、ライフプラザ新緑、老健リハビリよこはま (21 施設 24 名)</p> <p>(南ブロック) : うらら、鎌倉幸寿苑、ケアポート田谷、コスモス、スカイ、すこやか、ソフィア横浜、第三湘南グリーン、能見台パートリア、ハートケア湘南・芦名、ハートケア横浜、ハートケア横浜小雀、ヒューマンライフケア横浜、ユトリアム、横浜磯子、リハパーク舞岡 (16 施設 18 名)</p> <p>(西ブロック) : アゼリア、ききょう苑、グリーンヒルズ相模原、こまち、相模大野、さくらぶらざ、さつきの里あつぎ、サンライズ箱根、大地、にじの丘足柄、ぬくもりの家、のどか、藤沢ケアセンター、ふれあいの丘、ほほえみの丘、めぐみの里、悠久、ライフプラザ鶴巻、わかば (19 施設 20 名)</p> <p style="text-align: right;">以上 56 施設 62 名 記録者: 小林 (わかば)</p>	
内容	<p>司会・進行: 野島 (ソフィア横浜)</p> <p>1. 開会挨拶 内田 部会長(ウエルケア新吉田)</p> <p>2. 講義「介護老人保健施設の役割・機能、社会・制度的背景について」 講師: ニューライフ湯河原 事務主任・介護支援専門員 根本 容 氏</p> <p>◎老健の歴史 レジュメに沿って説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 60 年 1 月 24 日 社会保障制度審議会で老人福祉のあり方について話し合われる。 → 重介護を要する老人には、医療面・福祉面のサービスが一体として提供されることが不可欠である。 それぞれの長所を持ち寄った中間施設というべき介護施設を制度化する必要があった。 ・昭和 60 年 4 月 24 日 中間施設に関する懇談会 ・昭和 60 年 8 月 2 日 中間報告 ・昭和 61 年 1 月 10 日 厚生省、老人保健法改正大綱を決定 ・昭和 61 年 12 月 22 日 老人保健法改正公布 ・昭和 62 年 2 月 16 日 モデル事業スタート ・昭和 63 年 4 月 1 日 老人保健施設の本格的実施 <p>◎老健創設の目的と社会的背景 レジュメに沿って説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会的背景 <ul style="list-style-type: none"> 1. 医療費高騰の抑制 2. 高齢化社会への移行による福祉対策 3. 病院における老人の社会的入院による恒常的満床状態の改善 <p>→ 診療報酬の定額制の導入された老健を推進し、長期入院患者を収容し、医療費の高騰の抑制を図る。 且つ在宅復帰を目的とした施設を充実させると同時に医療施設の効率的運用を可能にする。</p>	

内容	<p>◎<u>老健の社会的位置付け</u></p> <p>レジュメに沿って説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間施設としての位置づけ <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療と福祉の中間 2. 施設と家庭の中間 <p>◎<u>老人保健法下での老健</u></p> <p>レジュメに沿って説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成8年から介護保険制度が始まるまでの間は、療養費は通減制(3か月毎に減収となる)だった。 ・老健の入所期間が3ヶ月・6ヶ月といわれる原因はここにある。 <p>◎<u>介護保険施設の比較</u></p> <p>レジュメに沿って説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護老人保健施設、介護老人福祉施設、介護療養型医療施設の違い ・H24年度の介護保険改正により、老健でも肺炎、尿路感染症、带状疱疹者に治療管理を行った場合算定可能となった。→所定疾患施設療養費 <p>◎<u>介護保険制度下の老健</u></p> <p>レジュメに沿って説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本理念として重要事項説明書に書かれている内容 <p>◎<u>老健の理念と役割</u></p> <p>レジュメに沿って説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 包括的ケアサービス施設(チームで支援行う)→多職種をコントロールしていくかが相談員の使命 2. リハビリテーション施設(集中的な維持期リハビリ・生活リハビリを行う) 3. 在宅復帰施設(早期の在宅復帰に努める) 4. 在宅生活支援施設(他サービス機関と連携した総合的支援を行う) 5. 地域に根ざした施設(地域と一体となったケアを行う) <p>◎<u>2025年問題 老健の今後について(根本氏の私見)①</u></p> <p>老健の現状は、第2特養化(入所が長期化している)</p> <p>↓しかし</p> <p>今後の介護の情勢…地域包括ケア(在宅介護)へむかう</p> <p>地域包括ケアシステムイメージ</p> <p>現在…人がケアに合わせる仕組み(施設を単位としてパッケージ化されたサービスを提供している)</p> <p>↓</p> <p>2025年…ケアが人に合わせる仕組み(地域を単位としてパッケージ化された地域ごとのサービスが完結)</p> <p>→身体状況の変化に合わせて必要なサービスを地域資源の中で組み合わせる。</p>
----	--

内容

危機感として

- ・今後老健は特定の機能をもつ一部の施設を除き、介護保険施設は「特別な住居」となる。
→従って老健が老健ではなくなる。グループホームなどと変わりがなくなる。
- ・介護の担い手が少なくなる。
- ・生産世代が少なくなる。
- ・在宅系サービスに移行する。⇒20万人／日は地域でケアへの時代

◎2025年問題 老健の今後について(根本氏の私見)②

老健が生き残っていくためには

- ・在宅復帰支援機能加算を算定していく。
- ・在宅強化型への完全移行→老人保健法の老健に立ちかえる施設運営をしていく。

◎2025年問題 老健の今後について(根本氏の私見)③

老健が老健として生き残っていくためには

- ・老健に地域包括支援センターを併設していく。
→老健を「特別な住居」ではなく「独自の機能を活かした「基幹施設」へ
※地域包括ケア研究会の動向にも注目

10分間休憩

3. 講義「支援相談員としての基本情報の取り方、面接技術の習得」

講師：山梨県立大学人間福祉学部 福祉コミュニティ学科 伊藤 健次先生

9グループ(1グループあたり約6名)に分かれ、各グループに執行部1～2名ずつ配置

【講義開始】

1)はじめに

- ①講師自身のこれまでのキャリアを織り交ぜながら、アセスメントについて学ぶ。
収集した情報を意味づけしていくことが大切。
- ②各グループで、名刺交換・自己紹介をおこなう。
→自己紹介・・・意図を持つと見え方が違う。家族や本人との面接では、最初の入り方が重要となる。
相手の置かれている状況を把握する意味もあり、相手には自分はどういうことを提供していく役割の者なのか、伝える意味もある。
- ③グループ内で一人司会進行者を決める。

2)配布資料の確認

- ・レジュメ
- ・演習記入シート
- ・役割設定シート(各グループ)

<p>内容</p>	<p>【演習開始】</p> <p>～演習内容～</p> <p>新規利用者受け入れ担当者として、グループワークやロールプレイを通じてアセスメントを中心に、利用申請の相談援助の過程を学び、実践に活かしていく。</p> <p>グループワークやロールプレイを経験することで、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な考えがあることをつかむことが大事。 ・他者の視点を知る事で、自分自身が見落としていた部分、自分自身の利用者理解の傾向に気づく事ができる。 <p>●各々でレジュメ2ページまで(利用基本情報、相談の経緯、現段階で把握されている生活状況)を把握する。 →事前の情報からまだ見ぬ利用者・家族の情報を読み取る力が要求される。</p> <p>●演習1を実施(自身が注目した情報と注目した理由を抽出・シートに記入)</p> <p>●演習2を実施(自身が追加したい情報と注目した理由を抽出・シートに記入)</p> <p>●グループワーク1を実施(演習1・2で実施したことをグループで話し合い、考えを共有し、シートに記入)</p> <p>グループワーク1の説明 (ポイント)</p> <p>情報収集の注意点として、この情報はどこからもらされたもので、どの程度裏付けがあるのかを含めて吟味する事。 アセスメントにおける情報収集は聴く必然性・根拠を持つて行うことが重要。</p> <p>●演習3.4を実施(面接の目的はなにか、情報収集すべき事柄と情報を得るための質問を考え、各自で演習シートに記入し、グループ内で整理していく)</p> <p>(面接時ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助者の面接には達成したい目的がないといけない。 →目的がないと、用いる援助の手段が変わってきてしまう。誰がどうなっていれば良いかが重要な視点となる。 ・一方的に援助者が情報収集をするのではなく、相談者の苦悩、抱えている問題を聴き出せる問いを用意しておくことが必要。聴き方のバリエーションを持つことが大切。 <p>13:00～14:00休憩</p> <p>●ロールプレイ1(家族の面接)の実施 (グループで役割を設定し、各グループでロールプレイを実施。グループで振り返りも行う)</p> <p>ロールプレイ1についての流れの説明 (面接時のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接は相手によって流れが変わる。援助者はその中で絶対おさえなければいけない必要のある情報を把握しておかなければならない。 ・援助者はできるだけ早い段階で語ってくれた内容を要約し、必ずご本人の言葉を使って返してあげる事が必要→相手はこの人は話を理解してくれて、きちんとおかれている状況を認識してくれているのだと感じる。そこから信頼関係がうまれる。 ・共通認識を把握した後は、施設として「できること」「できないこと」をきちんと伝えることが必要。 →相談者の期待していることと実際にできることのギャップが埋まらないと次の段階に進めることができない。
-----------	--

内容

●演習 5 収集情報の確認(レジメP5)の解説

ケアマネジメントをしていく上で、相談援助に必要な枠組み 14 項目を頭に入れておく必要がある(演習記入シート 4・5を参照)

本人にとっての問題を当事者中心と考えるとすれば「本人の言葉」できちんと把握することが大事。

●演習6 この段階で絶対に押さえておかなければならないことは何か？

◎絶対におさえておかなければならない項目

- ①ADL の具体的な状況の確認
- ②生活に影響する疾病の状況と注意事項の確認
- ③本人の現在の状況認識
- ④本人の希望
- ⑤自宅の状況(今回の事例ケースでは家業について)

→本人のニーズ、希望などを把握していないと、どんな支援をしようとしても本人には受け入れてもらえない。

●ロールプレイ2(本人との面接)の実施 (ロールプレイ1とは違う役割で、各グループで実施。)

ロールプレイ2についての流れの説明

●まとめ

(アセスメントをしてくえでの重要なポイント)

・本人の状況から考えなければいけない。

→本人にとっての回復レベル・イメージは過去の体験に大きく依存している。どのように生きてきて、本人の身体能力はどのような意味づけにあるのか把握していないと本人の援助にはならない。

・現在(現在のADLや病状など)、過去(生まれてから現在までのプロセス)、未来(この先の見通し)という3つの時間軸をおさえて、今よりもちょっとでも良くなるプロセスを提示すること

4. 開会挨拶 渡邊副部長(スカイ)

5. 事務連絡

アンケートの記入及び提出依頼

今後の研修予定の案内

懇親会の案内

以上

H23 年度 支援相談員部会 新人研修 アンケート

回答総数：40 名

①今回の研修内容について

1)研修のテーマは興味を感じるものでしたか？

a.興味がある b.どちらともいえない c.興味を感じない

41

4

2)内容に対し、研修時間は適切でしたか？

a.長すぎる b.適切 c.短すぎる

3

37

5 (ロールプレイ短い内2)

3)研修内容のレベルは適切でしたか？

a.高すぎる b.どちらともいえない c.低すぎる

5

40

4)研修内容は業務に生かされると思いますか？

a.思う b.どちらともいえない c.思わない

45

5)今回の研修で響いた言葉と、選んだ理由をあげてください

・ 響いた言葉 →

・ 選んだ理由 → ①-5 参照

6)今回の研修でよかった点と良くなかった点をあげてください

・ 良かった

・ 良くなかった ①-6 参照

②研修の総合的な評価について

1)研修に参加してよかったと思いますか？

a.思う b.どちらともいえない c.思わない

43

2

2)今後もこのような研修に参加してみたいと思いますか？

a.思う b.どちらともいえない c.思わない

42

3

③今回の研修に関して

1)今後どのような研修に参加してみたいですか？

・ 参加してみたい内容

・ 招いて欲しい講師 ③-1 参照

2)執行部に対する希望・要望をあげてください

③-2 参照

ご協力ありがとうございました今後の研修計画の参考にさせていただきます。

①-5 響いた言葉と選んだ理由

響いた言葉	選んだ理由
本人はどう思っているのかを明確にする	つつい御家族のい子のに流されがちであった
未来	今後の事を考えてのインターク
人生の援助	
過去・現在だけではなく、未来も考えた支援	入所者本人・家族が生活に希望を持つ為に、必要だと感じた為
普段何気なくおこなっている面談について、意識的に目的をもって行っていく大切さに気付きました	
老健の未来（根本さん）	制度変更後、目先の事+長い目でどう振る舞う準備するか考えさせられた
人生の支援	感銘を受けました
今より良い未来に向けた援助	意識して業務に生かしたい
本人の意向が大切	
本人の意向を絶対おさえておくことで、いろんなリスクをある程度減らすことができる	
要約して老健でできることを伝える	クレームを防ぐため
収集した情報を意味づけしていくことがアセスメント	「判定会議にかけるため」に情報収集をしている事が多かったのかなと感じ反省をする機会になった為
ウラづけを意識づける	自分に不足していることだから
人生の援助者	
本人との面接で、未来の今より良くなった共通のイメージを考えられないと本人との信頼関係が得られない	つつい本人のできなくなった現状に注意しがちなのでこれから面接する上で念頭において面接をしていきたい
本人の過去の栄光を含めた支援を	団塊の世代の入所が増えてくることに対しての危機感と意識変革
分析統合	意味付けをすることにより理解を得る
老健の今後	自分の働いている環境だから
相談員単独で動ける事は少ない	いつも自分が思っていることだから
漠然とした危機感・今ある目の前の危機感	“把握することでそれについて、深められ未来につなげられる
不安の中見を整理する	ロールプレイで全くできていなかった
今まで現在描いていた未来すべて把握してその人を理解する	本院の理解について改めて意識する機会になりました
権利意識・発言力のある当事者（入所希望者）に対するアセスメントを考えていかなければならない	多数のインタークをこなしていくと、当事者の希望を見落としがちになるので改めてアセスメント方法を見直そうと思った
本人の意向を聞くことは重要	家族の意向ばかり聞いていて本人の気持ちを考えられていない所があった

未来の為にリハビリする為、老健入所へ	今後の希望持ち向上なければステップできず
クライアントをどうとらえるかで変わる	現在だけでなく、過去・未来を含めてその人だということ ことを再認識できた
過去・現在・未来をつなぐ	人生の援助者だから
未来・人生の支援をしていく	人として過去・現在・未来があるということ
アセスメントの意味づけ	今までまったく意識していなかった為
情報の意味づけ	意味あるアセスメントを実施していくことを、これから 課題として忘れない為
過去→現在→未来 人生の支援	相談員業務の重ねを再認識できた
御本人の理想の未来に近づけた生活をおくれるよう に老健に入所して頂き支援する	
人生の援助者	己の業務が 1 人の人生に関わり影響を与えていると いう認識を新たにできた

①-6 良かった点と良くなかった点

*良かった

- ・ディスカッションの時間と 1 人で考える時間のメリハリがあってよかった
- ・ロールプレイ (7 名)
- ・事例で理解できた
- ・ロールプレイなどがあり、普段気がつけなかったところに気づくことが出来た
- ・ロールプレイやグループワークを通して意見交換ができてよかった
- ・他の老健の SW との関わりを持てた
- ・伊藤先生の講義の内容
- ・アセスメントの深さを感じました
- ・ロールプレイで現在の自分の知識・スキルが分かった
- ・ロールプレイでいろいろな意見が聞けた
- ・老健の歴史について
- ・老健施設の今後を考えるきっかけになりました
- ・普段自分が面接を行う上での悪い点がわかった
- ・ロールプレイで自分を客観的に見てもらえる機会があり良かったです
- ・業務で少し困っている事が少し解決できた
- ・ロールプレイで違う役割を体験できたこと
- ・ロールプレイで他の人の面接技術がわかりやすかったです
- ・実務的に役立つ内容
- ・講義内容が分かりやすかった
- ・普段何気なくおこなっている、面談について意識的な目的をもって行い、大切さを気づきました
- ・グループワーク (2 名)
- ・ロールプレイをすることで、グループ内の方ととても交流ができて良かったです
- ・ロールプレイで他の方の面談の仕方をみれてとても勉強になった
- ・事例検討で相談役・家族役ができたのは良い経験でした

＊良くなかった

- ・他のグループの状況がわからなかった（2名）
- ・時間配分
- ・一つのテーマに要する時間が少し短かった
- ・事前準備（学習）の指示があればよかった
- ・ロールプレイ時、他の参加者の援助技術を観たかった
- ・ロールプレイの時間が長かった
- ・ロールプレイをもう少しやりたかった
- ・1日研修は、業務上参加の意思があっても、中々実現が困難。半日程度であればもっと参加できると思う
- ・時間がおして最後また話しあう時間がほしかったです

・③－1 今後どのような研修に参加してみたいか

＊参加してみたい内容

- ・今日のような内容も踏まえて、定期的に自分の業務を見直すものがほしい
- ・アセスメント方法
- ・在宅復帰
- ・これからの老健について
- ・診療情報提供書の見方
- ・面接技術
- ・仕事をしながら深くについて気づける研修
- ・認知症の方への関わり方
- ・講師による実際の面性をみさせて頂きたい
- ・相談員としての他職種との関わり・接し方

＊招いて欲しい講師

- ・現場の方
- ・伊藤先生
- ・日本福祉出し額 明星先生・訓覇先生
- ・高口光子先生（つるまいの里）
- ・リハビリ研究所の方

③－2 執行部に対する希望・要望

- ・年に1回ではなく何回か研修をやってほしいです
- ・相談員はともすると孤独に陥る事も多くあり、1人で悩む相談員もいると思いますので、なるだけ集団で集まり情報を共有する機会があればと思います
- ・開会式のときにおおよそでいいので、タイムスケジュールを発表してほしい
- ・ありがとうございました(多数)